

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271402150		
法人名	有限会社高原		
事業所名	グループホームあすなろ		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町馬場名277番地		
自己評価作成日	平成 27 年 9 月 7 日	評価結果市町村受理日	平成 27 年 12 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;Jigvsvocd=4271402150-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;Jigvsvocd=4271402150-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 27 年 10 月 27 日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コミュニケーションをとり入居者様の笑顔が見られる明るい雰囲気作りを心がけている。昼食前に嚙下体操を行い、いつまでも経口にて食事が出来るように支援している。また、衣類の購入希望があれば一緒に買い物に行ったり、町内の衣類販売店さんに訪問頂き、入居者様に選んでもらったりしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは田園を望め静かに過ごせる環境と、市役所・病院・スーパーが近くにあり便利な面がある。グループホームは施設ではなく家庭の次の段階であり、入居者と職員が共に生き生きと過ごす事ができるようにとの想いで支援に取り組んでいる。病院受診の際に持参する受診ノートには日々の記録や医師の言葉等の詳細が記され、医師や薬局と相談しながら入居者が適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。また、音楽レクリエーションを取り入れ、ホーム内ではナツメロをかけたリピアノ演奏会のレクリエーションを行い、入居者の楽しみに繋げている。施設長はトップダウンではないとの経営方針を元に、職員が何でも言い合える和気あいあいとした雰囲気作りを努め、笑顔で元気に仕事に取り組む様子と、全体に家庭的な様子が窺え、今後も更に期待が持てるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 クローバー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当初から変わらない理念で業務中も言葉に出し共有している。	入居者や家族が安心し、生き生きと過ごしていただきたいとの願いが込められた理念は会議の折に支援内容を職員間で振り返り、本人や家族とコミュニケーションを図りながら職員間で想いを共有し理念に近づけるよう取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物、散髪、病院受診等、地域の施設を利用しており受診時は会話も弾んでいる。	近所の美容室の訪問や地域の中学・高校の福祉体験を通して行事やレクリエーションを共に楽しみ、地域との接点を多く持つ取組によって入居者が笑顔で会話を弾ませる機会となっている。入居者の外出も困難になってきているが、今後も地域との交流を積極的に行う方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議等に参加している。中学生の福祉体験、高校生のインターンシップの受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の日常生活状況、出来事などを報告しアドバイスをもらいながらサービスの向上に生活に活かしている。	運営推進会議の際、介護の経験がある民生委員の方に相談にのってもらいアドバイスをもらう事もある。また、派出所の方も参加され情報交換や有事の際の協力を得ている。施設での行事に参加していただき親睦を深めるよう取組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市民窓口課の方や福祉課の方へ相談したり報告を行っています。	市役所を訪れ、生活保護の手続きや介護保険更新についての相談をしている。認定調査を受ける時にかかる時間や、入居者へ体力的な負担等かかりすぎないように配慮する事を再度市へお願いしたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルも作成しておりスタッフは理解している。	身体拘束の研修会に参加した際にはホーム内で勉強会を実施し、今年度はDVDにて内部研修の機会を持った。認知症の服薬がある方の状態に合わせて、事故防止の為に同意をもらった上でセンサーを使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修には参加し、意識して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議時や回覧でパンフレットに目を通してしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に時間を作ってもらい向き合っ説明し理解してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時等に要望やご意見がないか尋ねている。	家族が訪問された際、意見・要望を聞くよう努め、家族からの要望に応え、個々に応じて外出届けを簡素化するよう改善した。また、家族へホームから入居者について電話をかける際、家族の気持ちに配慮したかけ方を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一のミーティングで話し合い意見を出せる場を作っている。	月1回職員会議を行い、議事録にて全職員が共有している。各ユニットで曜日をずらして会議を実施し、施設長と管理者は両ユニットの会議に参加している。「提案書」に沿って入居者の支援の方法等を話し合い、状況に応じて勤務時間を相談する等意見を反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員に向上心を持つよう声かけを行い、職員の事を考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修予定を職員へ配布し参加できる機会を確保し、会議時に共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加をすすめレポートを皆で共有し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にケアマネ、主任が家等を訪ね入居者様・ご家族と面談をし話し合いをすることによって信頼関係をとり良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にまずケアマネ、主任とご家族の要望を傾聴しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族とケアマネ、主任が面談・話し合いをしたのち職員間でも意見を共有し、更に必要とされるサービス利用の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、たたみや食事の準備など一緒に行う事でお互いの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出などの時にコミュニケーションをとってもらっている。敬老会やクリスマス会などのイベント時は呼びかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に入所前から通院されていた病院はそのまま継続し、ドクターや看護師さん、外来患者さんとのつながりを持つようにしている。	お盆やゴールデンウィーク等の時期に遠方の親戚や知人・友人の訪問がある。また、家族が行きつけの美容院へ連れて行ったり、お盆・彼岸・月命日には入居者を自宅まで連れて帰る事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	育ってきた環境や個々の性格が違うのでいい時ばかりではないが、お話やレクリエーションは一つのテーブルに集まって楽しんで頂いている。何か一つ作業がある時には共同作業ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り、どう過ごされているか訪問したりしながら入居者様やご家族とコミュニケーションをとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様又はご家族より生活歴や希望、意向を伺いながら支援に努めている。	入居時、生活歴や希望・意見を聞き取りし、支援に反映するよう取組んでいる。意思表示が困難な入居者には筆談で対応し、言葉や表情からも思いが汲み取りにくい入居者には全職員が時間をかけて思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやサマリー、バックグラウンドシート作成や依頼を行ったり、入居者様やご家族と会話しながら情報共有、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりコミュニケーションをとり、介助する上で行動のリズムや心身状態の変化がないか観察し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況を職員同士で情報交換を行い会議時に課題を検討し、ご家族に相談しながらプランに反映している。	家族が訪問された際、意見・要望を聞くよう努め、思いを第一にと考えケアマネージャーが介護計画を作成している。「申し送りノート」で気付いた事を職員会議で話し合い、計画書に反映するよう取組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子やケアを記入し目を通したり、職員間で朝・夕に申し送りをすることで情報を共有し、その場又は会議でも話し合いながら見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の訃報時に仮通夜、お通夜、葬儀への送迎を支援したことがあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーに入居者様も同行してもらい食材選びなどを一緒に行っている。近隣の美容室の方に訪問して頂き、散髪してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から通院されている病院をそのまま利用しています。疾患がかかりつけ医の専門分野でない場合は紹介状を書いて頂き適切な診察、治療ができるよう支援しています。	入居前からのかかりつけ医への受診は職員が支援し、家族が同伴される事もある。受診の時に持参する「受診ノート」には日々の記録や医師からの言葉・服薬情報を記載している。また、薬についても医師や薬局へよく相談し、適切な医療を受けられるよう取組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化は即座に職員間で共有し、かかりつけ医へ相談し指示を仰ぎ受診へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診ノートを作成しており、医師や看護師に情報を開示したり相談をしている。また、入居者様の様子を知る為にお見舞いに行ったり、電話で様子を伺ったりしながら退院後の変化に対応できるようアドバイスを頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合など早い段階でご家族と今後のあり方について話し合っています。	看取りの経験がある職員はいるが、現在看取りを行う方針はない。入居時に説明をし家族と話し合うよう取組んでいる。緊急時の介護マニュアルが準備され、救急救命の講習会にも参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、急変時の対応、救急車要請の実践は積んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の訓練を行っています。毎日、夜勤者による建物の周りの点検や巡回を行っています。	年2回の消防訓練には職員と共に入居者も参加し、消火器の操作も周知している。また、職員には消防学校の訓練に参加した人もいて、今後も消防学校での訓練の実施を検討している。 地域住民と付き合いはあるが、有事の際の協力体制や避難訓練への参加までは至っていない。	水害を想定しての防災訓練の実施と、地域住民の協力体制の構築(警察・市役所等の協力を得る等)を期待したい。また、備蓄品の再検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを意識し、その方に合わせた言葉遣いで声をかけ介助を行っています。	今まで歩んでこられた入居者の人生・人格を重んじ、人生の先輩として言葉掛けに注意し支援に努めている。入室の際には声掛けとノックをされている。現在、接遇基本マニュアルを作成している。	接遇マナーの内・外研修を実施し、全職員で振り返り、新人の教育に繋げる事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に選択してもらう場面を作ったり、思っている事を話せるような環境や雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの過ごし方があるが、思うようにできていない。一日の流れがあるので、どうしてもお願いする事が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容時、介助が必要な方はスタッフで行い、ご自分で出来る方は入居者様に行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を把握して提供しています。食材の下準備や食器拭きを役割分担をしながら入居者様と一緒にしています。	入居時の嗜好調査や入居者の状態に合わせて刻み食・トロミをつける等で対応し、行事に合わせた食事や外食に出かける事もある。入居者と職員は会話を楽しみながら共に食事をしている様子から家庭的な雰囲気が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた食事形態で提供し食事摂取量、水分摂取量を記録してトータルで少ない場合は代替品などで工夫し、時には食事や水分を介助しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや歯ブラシ、歯磨き粉のセッティングを行ったり義歯洗浄を介助したり、口腔内の状態を確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ類の使用量が多くなならないよう時間をみてトイレへの声かけ誘導を行っています。	基本トイレで排泄できるよう支援に取り組んでいる。失敗した際には周りに気を配りながらさりげない声掛けをし交換をしている。また、水分の摂取量に配慮し、お茶やジュースなど入居者に応じて水分補給を促すよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無を確認し、水分の温度、種類を調整したり、食物繊維を摂取頂いたり、下剤で調整したりおやつの前後の時間を使って体操を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが入居者様に声かけし体調不良の場合は中止、断られる場合は時間をおいて再度声かけを行い利用頂いています。現在、入居者様も曜日で認識されているという利点もあります。	週3回各ユニットが曜日を交互にずらし支援している。入浴を嫌がる入居者にはタイミングを見計って声掛けしたり、曜日を変えて対応している。入居者の肌の状態に応じて市販の保湿剤や医師の指示の下処方薬を塗布するよう支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良や眠気がある場合は声かけしたり誘導することで休息を取って頂けるよう支援している。寝具の清潔や高さ、角度など調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書などで使用している薬剤を把握し、確実に服薬して頂くよう口腔内確認などに取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな音楽を流したり歌ったりしながら心地よい雰囲気を出せるよう努めている。家事なども出来る範囲で取り組んで頂いている。嗜好品の購入依頼も受け付けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご高齢な入居者様も多く体力的な問題や体調変化が起きやすいことから過ごし易い季節限定で行っています。また、ご家族付き添いの外出は随時受け付けています。	入居者の希望に応じ、買い物や墓参り等出かけられるよう支援に取り組んでいる。また、外出時には家族の協力を得られることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に預り金の管理は施設側で行っています。ただ、いつでも嗜好品や欲しい物があれば希望に沿って購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様への電話やかかけたいと言われた場合には取次を行っています。手紙も入居者様宛てに届いた時にはお渡ししていますし、返事を書きたいと言われた時にも投函までの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窓があり、直接的な眩しい光が入らないように工夫している。また、壁には季節感をとりえた物を職員と入居者様で作成して掲示している。	音楽レクリエーションを取り入れ、ロビーにあるグランドピアノを職員関係者が演奏会を開催し入居者の楽しみとなっている。また、入居者もピアノに触れることもある。各ユニットはバリアフリーで広々としており、車イスが楽に通れる広さが確保されている。テレビの前に設置されたソファで入居者がゆっくと過ごしている様子が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の席は入居者様の性格などを汲み、入居者様と職員を交えて相談しながら決めている。気持ちよく過ごして頂けるようしている。一人で過ごしたい方にはソファや居室を利用頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具を持ち込んで頂いたり、写真を飾ったりしている。また、物があると不穏になられたりする方はシンプルな雰囲気になっています。	各居室にはベッド・トイレ・洗面台が備え付けられている。入居者は今まで使い慣れた家具や家族の写真等を持ち込み、夫婦で入居されている入居者には、日中、一緒に過ごせるような部屋や家具の設置に配慮している様子が窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の壁、居室内トイレ等には手すりを設置したり、浴室や共同トイレには名称を掲示している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟に掲示しており、月1回の会議時には最初に復唱してから会議を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地元の美容室の方にお願ひし散髪に来て頂いたり、洋品店の方にもおいで頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方、包括支援センターの職員の方、介護関連事業所の職員の方が参加する地域ケア会議に参加し、事業所の様子や地域への携わり方などアドバイス頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方や警察の方、行政の方、地域の代表の方に参加頂き、ホームも現状などを報告しながらアドバイスを頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、書類提出などの際に話を交わし情報の交換等行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間だけ行っています。身体拘束の関係資料など共有の場に置いて、理解を深め実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の資料、DVDなどを設置し虐待防止に向けてケアしている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前の研修会資料やパンフレットを活用し、少しでも理解できるよう努めている。数年前に成年後見制度に少々携わったことがあるが現在はありませぬ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約の時間を十分にとりご家族に説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見や要望を表せるようにしている。意見や要望を聞いた時には会議時に話し合いの場をつくり反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案書を準備しており、提案事項があれば話し合う機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員の行動や意見(提案)に耳を傾け、労働時間や給与等に変化を与え質の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域協会の代表者となり法人内外のケア向上に向けて研修会や講演会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事例検討会や研修会に参加する際に他事業の職員さんを紹介してもらった場面を作ってもらっている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い不安なことや要望を聞き取り職員間で共有し、良い関係作りに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望やご家族でないと分からない情報等を聞き取り職員間で共有している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要とされる支援なのか職員間で共有し、安心した生活ができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることは声かけや励ましを行い、出来ない事はさりげなく支援しながら過ごしています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に支援を求められるようであれば協力をお願いしながら家族の絆を大切にしています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院等や墓参り、親戚の方への報告、面会の要望等、以前の関係継続ができるよう支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりに声かけを行いその輪に入って来られるような雰囲気を作っています。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方(転居されたり、入院された方)の面会やお見舞いに出かけこれまでの関係を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人より希望を聞くようにしている。又、日々の会話の中から希望や意向が聞き取れるようであれば記録し把握している。	入居時、生活歴や希望・意見を聞き取りし、支援に反映するよう取り組んでいる。意思表示が困難な入居者には筆談で対応し、言葉や表情からも思いが汲み取りにくい入居者には全職員が時間をかけて思いを汲み取るよ	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様のバックグラウンドをわかる範囲でご家族に記入していただき、共通話題を把握しながらケアに結び付けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の意思を尊重し好きな事を日々して頂くよう支援行って頂きながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議に日々蓄積してきた課題やケアのあり方について話し合いプラン作成につなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテを記録し、朝夕の申し送りを行い情報の共有をしている。日々の気づきや変化を会議時の議題にあげプラン見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族宅へ入居者様を連れて行ったり、ご自宅の事が気になれば同行したり、シルバー人材センターに家の周りの草刈を依頼したりしている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に警察の方、民生委員の方、元商工会会長の方、包括支援センターの方に参加して頂いており町内の様子や今何が起きているかなどの情報を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際、お薬が増える時はご家族の希望とホームの提案など含め相談しながら方針をドクターへ伝え処方して頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の雇用をしていない為、かかりつけ医の看護師へ相談しアドバイスを頂きながら連携を取りいいタイミングで受診できるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側と施設側のお互いの情報提供を行っており、よい関係が築けていると思います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前にご家族との話し合いを行いながら、重度化する前に医療機関への移行を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが訓練は行っている。急変時に備えマニュアル等を整備し対応に努めている。実際の急変時に初期対応や救急車要請、搬送を数回行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	ホーム独自の防火管理マニュアルを作成し、消防訓練、避難訓練を行っている。また、毎日の外回りの実施、警備会社との契約を交わしている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生きてきた環境が違う事からその方にあった声かけや対応、支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来ない方には職員が入居者様の想いをくみ取り希望に添えるよう支援し、自己決定が出来る方には、入居者様に意思決定を行って頂いています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様にの一人ひとりの過ごし方、リズムを尊重し必要な支援を行っています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目(衣替え)に入居者様所有の洋服などを見ながら、購入が必要な場合は一緒に買い物へ行き(または訪問して頂いたり)選んで頂いています。その時、迷われる場合にはアドバイスの支援を行っています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを出来る方には一緒に行ったりしています。好き嫌いのある方には出来るだけ配慮して提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量など記録にとり、その方にあった大きさ、硬さ、量を提供し、水分はいつでも飲めるようにペットボトルに入れて提供しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声かけにてお願いし、出来ない方には、声かけ・誘導・介助を行っています。	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間ごとに声かけし誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の具材を細かくしたりして消化し易いようにしたり、体操やマッサージ等を行ったりしながら便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけを行い入りたくないと言われた時は無理に入れず時間をあけて再度声かけを行ったり、入居者様に入りたい時間などを聞いて支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態を見て休息を促したり、介助が必要な方は居室へ誘導し休んで頂いている。ソファでうたた寝されている時、ずり落ちたり転落しない状態であればそのまま寝て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテの他に受診ノートを作成しており薬に関する内容や経緯を確認できるようにしている。服薬支援を行い症状の変化時にはかかりつけ医へ連絡し対応の指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや準備、片づけ、洗濯物干し、たたみ等声かけを行い、その方々にあった役割を持って頂いている。作業中に会話を交えながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物同行等、その時その時で希望を聞き、戸外に出かけられるよう支援している。また、ご家族の配慮により地域の方との触れ合う場を設け外出されています。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が買いたい物がある場合は、入居者様と一緒に買い物に出かけ購入したり、入居者様やご家族に確認を取りながら職員が代理で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われればかけ、取次も行っています。手紙も便箋、封筒を準備、投函まで行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	直接的な光や反射光がないように天窓には飾り紙を貼ったり、空調を常に調整したり、季節ごとの掲示物を変えたりしながら過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に居たい方やリビングに居い方などお一人お一人が居たい場所で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を貼ったり、使いやすいタンスを持ち込んで頂いたり、身体状態に合わせて模様替えを行い過ごし易くできるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	入居者様が行き来される場所の壁には手摺を設置しています。また、談話や皆でTVを見られるようにソファを設置しており、それぞれの過ごし方ができるように工夫している。		